

令和4年度上大久保中学校だより

上中だより

第7号

令和4年11月1日(火)発行

学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

実りの秋

けんもつ ゆきひこ
校長 監物 幸彦

少し冷えた秋の空気が心地よい季節となりました。いよいよ秋本番。芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋など、秋には他の季節にはないたくさんの言葉があります。

それぞれの秋の由来を調べてみると、「芸術の秋」は、この時期が暑くもなく寒くもなく過ごしやすい気候で、創作活動に集中しやすく、展覧会や音楽会が一番多く開かれる時期でもあるので「芸術の秋」と言われるようになりました。

「スポーツの秋」は、1964年に開催された東京オリンピックがきっかけです。開会式が行われた10月10日が体育の日（現在はスポーツの日）に制定され、スポーツに親しもうとする気風が高まったためです。

「読書の秋」は、中国・唐代の文人である韓愈（かんゆ）が残した詩の中に「燈火（とうか）親しむべし」という一節があり、「秋の夜は涼しさが気持ち良く、あかり（灯光）で読書をするにはもってこい」という意味です。この詩を夏目漱石が、小説「三四郎」の中で取り上げ広まったとされています。

「食欲の秋」は、「日照時間が短くなると、心身の安定につながる脳内の「セロトニン」の分泌が減り、それを補うためにたくさん食べたくなる。」「気温が下がると基礎代謝が上がるため、寒い冬に備えてカロリーを蓄えておこうとする。」などと、いろんな説がありますが、主食のお米をはじめ、サツマイモ、梨、栗、サンマ、松茸、柿、新そば…と、シンプルに美味しいものがたくさん旬を迎えるからというほうが実感がわきます。

さて、秋は学校行事が一番多い時期でもあります。まず、皆さんに紹介したいのが、駅伝の練習に参加したメンバーのがんばりです。3年生は夏休みから、1、2年生は9月から練習に取り組んできました。必ずしも駅伝の選手を目指す生徒だけではなく、体力増強や心身ともに鍛えたい生徒が自主的に集まって練習を行いました。駅伝は、日本発祥のスポーツです。

「走ることは自分との闘いである」とはよく言われる言葉ですが、駅伝は、自分のためではなくチームのために走ります。

「絶対に勝ちたい」「皆のために最高の走りをする」「タスキを必ずつなげる」という気持ちがチーム内で一つにまとまることで、固い団結を生み、各走者の力を最大限に引き出し、精神的成長に導くのです。チームのために仲間と一つになるという駅伝の精神が、日本人に合っているとされる所以です。最近では、個人主義的な風潮が強くなってきていますが、駅伝の練習を見守っていて、チームのために励まし合いながらひたすら練習に励む子どもたちの姿に、美しさや清々しさを感じました。

合唱コンクールでは、体育祭に引き続き3年生が模範となり立派な歌声を披露してくれました。合唱コンクールを通して、何を学ぶのか？歌の練習を通して、見えてくるものは何だろう…。と、思いながら練習時間の校舎内を回っていました。思わず、途中で立ち止まってしまうクラスがあったり、引き込まれてずっと聞き入ってしまうこともありました。音楽の素晴らしさは、一人ひとりが奏でた音が、ひとつにまとまり美しいハーモニーとなったときに、一体感を味わうことができることにあります。また、音楽という目に「見えない」ものを通して受ける感性を育てることは、言い換えれば「目に見えない」ものの存在を体感することになります。さらに、目には「見えない」けれども、確かに存在する「何か」が、感動という形で私たちに存在感を示しているのです。サン＝テグジュペリの代表作「星の王子さま」に、「目に見えることがすべてじゃない。大切なことは目に見えない。」という、有名な言葉がありますが、目に「見える」ものを追求しがちな現代社会において、このような体験こそ大切にすべきと思っています。

合唱コンクールも終わり、三年生にとっては、受験に向けてラストスパートの時期に入りました。1月になると、私立高校の一般入試が始まります。残された期間はあと2ヶ月。この時期に何をすべきか、得意科目をさらに強化するのか、不得意科目を克服するために時間を割くのか、暗記すべきことに力を注ぐのか、いろんな考え方があります。それぞれの目標に向かって全力で頑張してほしいと思います。

実りの秋は、厳しい冬への備えでもあります。様々な活動を通して子どもたちには、これから待ち受ける予測不可能な社会を乗り越えていく力が着実に身についています。